

精神的信念の發揮による 工事の永遠性

帝國鐵道協會會長 國澤新兵衛
工學博士

社會の如何なる事業に雖も之を遂行するに當つては何人も精神的信念の確立を期する事が先づ第一に必要な條件である。

工事畫報社が昭和三年の初頭に工事美談號を發行して所謂各種の工事なるものゝ根本觀念を以て精神問題を強調せんとするは頗る當を得た事である。

× × ×

明治維新以來の我が帝國進運の蹟を顧みるに其文化の急激なる發展は世界に類例のない程であるが、此の總ての基礎をなしてゐるものは土木建築に關する各種の建設工事である。數千年來傳統的に養ひ來つた我が國民精神に云ふものは今日に於ても其根本に些少の變化もないが、一方社會生活の様式に於ては實に非常なる變化をなしたのである。

此の社會生活の様式の進歩に云ふ事は何を意味するものであるかに云ふに、先づ鐵道の建設である、道路の改良である、河川の改修である。港灣の築設である、都市の諸設備工事、等實に枚擧に暇ない程であるが、要するに交通機關の整備した事は明治以來の我國の大文化の中心をなすものである。

交通機關を初めとして此等諸種の建設工事に云ふものは何れも社會公衆の利害に最も大なる關係あるもので、工事の結果如何は其國丈けの問題でなく世界の政治經濟にも影響する處甚大である。

× × ×

小は自己が一個の住宅より、大は國際的の交通設備に至る工事までも、此が建設工事に従事する技術者たるものは自己の一擧手、一投足が世界の文化に如何に影響するものであるかを考へねばならぬと思ふ。

自分には工事美談を以て語る程の經驗も持たないが、總て自己の信念が直に其工事に現はれ、其工事は少くも數十年間、或ひは數千年間も社會に残つて人類に利便を與ふる事となるのであるから、工事擔當者の魂に云ふものは其れ丈永遠に残つてをるものである。

然乍ら總ての工事が自己一人の力で出来るものではなく、各方面の研究からなる優秀なる材料や、機械設備が統合されるによつて完成するのであるから自力と他力と相俱に融合しなければ眞の永遠性ある建設工事は出来ないものと思ふ。(以上)

